



東京大学安田講堂脇の坂道で花を付ける「ヒトツバタコ」



No.25 (平成24年)
 社会福祉法人 鶴風会
 東京小児療育病院
 みどり愛育園
 西多摩療育支援センター
 後援会
 —連絡先—
 東京都武蔵村山市学園4-10-1
 電話042-561-2521 (代表) 〒208-0011
 東京小児療育病院内
 Eメール trch@kakufuh.com

理念

私達は
**障害児者の生命機能の維持
 向上と生活援助のための誠実な
 積極的取り組み障害児者と
 その家族を支援します**

1頁	なんじゃもんじゃの木と創立50周年記念
2頁	五〇周年記念事業募金趣意書
3頁	「奇跡の松」のその後 <small>（大震災を記憶するために）</small>
4頁	重症心身障害認定看護師の認定を受けて
5頁	重症心身障害児施設長会議に参加して
6頁	永年勤続者表彰式 あと一歩が届かず
7頁	西多摩だより 臨床工学技士の紹介 後援会だより 耐震補強工事完了報告
8頁	ご寄付者名簿

なんじゃもんじゃの木と創立50周年記念

理事長 中里 厚

(一) 「なんじゃもんじゃの木」というのを御存じでしょうか？

名前だけは聞いたことがあるという方もおられると思います。学名は「ヒトツバタコ」モクセイ科の広葉植物で、絶滅危惧種に指定されています。原産地は中国の福建省で日本では非常に少ない木ですが、全国各地に見られます。

特に有名なのは長崎県対馬の鰐浦海岸に群生しており、花は五月に咲きますが、線香花火のように拡がる雪のような白い花は、月夜に映えて海面を照らすので「海照らし」の異名が有り、国の天然記念物に指定されています。東京では明治記念館、神宮外苑、小石川植物園、駒沢公園、砧公園、井の頭公園、深大寺、多摩全生園、あきる野市増戸中学校などほんの僅かな場所で見られます。

(二) 鶴風会東京小児療育病院は昭和三十九年に設立され、平成二十六年には創立五十周年を迎えます。当時重症心身障害児は全く行政の目が届かず、患児を絞殺する事件も多発しました。こうした障害児の惨状と親の苦境を何とか救おうと帝国女子医学専門学校（現在の東邦大学医学部）の卒業生が熱い思いで立ち上がりこの病院を設立しました。

一回生の龍智恵子先生を中心とするグループの女医さん達は、今でいえばNHKの朝の連続ドラマの「梅ちゃん先生」の戦中、戦後の混乱の中で卒業した先生達でした。

しかし行政のバックアップもなくスタートしたため、病院の運営は経済的にも人的にも苦しい状態が続き、何度も存続の危機に直面しました。当時私の母親も病院の評議員をしており、いつも病院の運営が「大変だ、大変だ」と言っておりま

した。そんな時に私の父親が「友達から珍しい苗木を買った」と言って植えていました。母親が「何の木なの？」と聞いた所、「なんじゃもんじゃの木という大変珍しい木だそうだ」と答えています。「こんなに病院が大変な時にあなたは本当にのんきでなんじゃもんじゃなんだから」とプリプリ怒っていたのを覚えています。

今は善福寺川の川沿いの我が家に、周径一メートル一〇センチの太木となつて聳え立っています。しかし葉の比較的大きい落葉樹なので、落ち葉の季節には道路や周囲の家に飛び散ります。そのため、雨の夜でも十一時過ぎに我が家の濡れ落ち葉が(?)濡れ落ち葉を掃いています。時折患者さんが通りかかき「先生遅くまで大変ですね」と声をかけて労ってくれます。

現在、東京小児療育病院の創立当時から関わってきて戴いた多くの職員や先生、役員の皆さんはほとんどお亡くなりになりましたが、この木は多くの方達の熱い思いが込められているためか、いまもグングン大きく成長しています。そしていつも私たちを頑張るよう見つけ、勇気付けてくれているように思います。

絶滅危惧種と言われたこの木を植えて五十年、ここまで成長してきましたがこれまで病院を支え育ててきて戴いた多くの皆様方に心より感謝を申し上げます。

(三) 最近の院内の状況

多目的ルームとして作られた明るくてきれいな「桑原ホール」は会議や講演会に毎日利用されており、毎日の予約もままならない状況です。

改めまして元後援会長の故桑原章吾先生と御家族に感謝申し上げます。

(四) 耐震対策

本館(外来及び事務棟)メインの塔の耐震補強工事が、東京都の援助で行われ、一部外観がきれいになりました。一方、建物内部を覗いてみると、医局は大変狭く各先生の机の上には山のように本や資料が積んであり、本棚も地震ですぐ倒れそうな状態です。

そんな中で或る先生の机の横には、患者さんの子供達の明るい笑顔の写真が沢山貼ってありました。この優しさこそが東京小児療育病院の屋台骨を支えている原点であると思います。

(五) 創立五十周年記念事業

平成二十六年には病院が創立五十周年を迎えます。老朽化した病院の改修や、記念の事業のために皆様方の御協力を仰ぐことになりました。

どうぞ御協力の程をお願い申し上げます。



社会福祉法人鶴風会

五〇周年記念事業募金のお願い

- 1 募金の目的 一、記念式典・祝賀会
- 二、記念講演
- 三、記念誌発行
- 四、その他の記念事業
- 2 募金の対象者 職員及び当法人の事業活動への賛同者
- 3 募金の目標額 二十万円
- 4 募金の金額 一口5千円(できれば二口以上でお願いします。)
- 5 募金の期間 平成二十四年七月一日〜平成二十六年九月三十日
- 6 申込方法等 申し込みをなさる方、又募金に関するお問い合わせについては左記にご連絡をお願いいたします。

東京小児療育病院内 社会福祉法人鶴風会後援会事務局

〒二〇八―〇〇―一 東京都武蔵村山市学園 四―十一

電話 〇四二―五六―二五二一

〔沿革〕 昭和三十七年 社会福祉法人「鶴風会」設立

- 昭和三十九年 東京小児療育病院(肢体不自由施設) 開設
- 昭和四十五年 重度心身障害児施設(みどり愛育園) 開設
- 昭和六十三年 重症心身障害児(者) 通所事業を開設
- 平成 十六年 西多摩療育支援センター 開設



「奇跡の松」のその後

く 大震災を忘れないために く

会長 五島 瑳智子

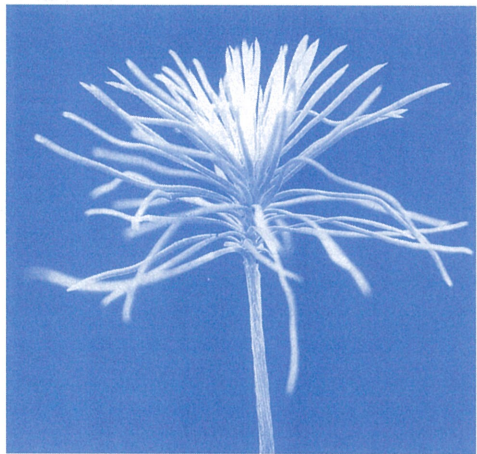
前号に紹介した希望の木（奇跡の松）は、多くの人の心を動かししました。

二〇一二年五月の連休に陸前高田市の松の木を大勢の人が訪れました。

七万本の松林の中、大津波に襲われ一本だけ生き残った松、すでに枯死したあの松の木です。その松ぼっくりから植えた種から発芽した若芽が五センチ位になったそうです（二〇一二年五月四日）。小さな小さな松の芽ですが、立ち姿が親松にそっくりに見えるのは、私だけではないようです。

枯死した木は標本に作って陸前高田市に残す計画が発表されました。二〇〇四年十二月インドネシアのスマトラ沖大地震による津波を生き延びた「海の松」と呼ばれる樹木と同種の苗木の種が陸前高田市に贈られるとのこと、六月三十日にインドネシア文化宮（東京都新宿区）で贈る人はアチエ州バンダアチエ市のサクラ・ゾフラ・ナルカヤさん（66）。サクラさんは、唱歌の名曲「早春賦」を作詞した吉丸一昌さんの孫に当たる日系二世で、二〇〇四年の津波で孫と自宅を失いました。被災後、同市北部のウレレ海岸に一本だけ残った「海の松」に勇気づけられたことから苗を贈ることを決めたと

のことです。



発芽した若芽



奇跡の松(親木)

重症心身障害認定看護師の認定を受けて

東二病棟主任看護師 阿部 千幸

このたび、日本重症児福祉協会による重症心身障害認定看護師の第一回目の認定を、東一病棟和山さんと共に受けることができました。

この認定制度は平成二十三年度に誕生したばかりですが、東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修での二年間にわたる研修受講と、その間取り組んだ研究を研修論文としてまとめたこと、さらに課題レポートの提出を行って、認定申請資格を得ることができました。栄えある第一回目の認定審査に合格することができて本当にうれしく思っています。反面、看護師としてまだまだ未熟な私としては、この認定に見合うような看護師にならなければというプレッシャーのようなものも感じています。認定看護師になったとは言え、プロフェッショナルになれたわけではなく、やっとそこへ向かう第一歩を踏み出せたにすぎません。

今後、私自身に何ができるのか、何をすべきなのかといったことも、今はまだ漠然としているのが正直なところですが、ただ、「常に利用者の立場で考える」「より最適な支援を模索し続ける」「より良い看護を追

究し続ける」というスタンスだけじゃ変えることなく、今後の看護に取り組んでいきたいと思えます。また、育成研修で知り合った他施設の看護師とのつながりを大切に、施設の垣根を越えてお互いに高め合える関係を作りたいと考えています。



和山看護師

阿部看護師

重症心身障害児施設長会議に参加して

東京小児療育病院院長 椎 木 俊 秀

児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴う制度改革の実施年度にあたり平成二十四年五月十日から十一日にかけて佐賀市で平成二十四年度全国重症心身障害児施設長会議が開催されましたので、感想を中心に報告いたします。当院からは私と吉田総務部長、西藤看護部長、柳瀬生活支援部長が参加しました。プログラムの概略は以下の通りです。

行政説明
特別講演 「介護者のメンタルヘルス―

共倒れにならず、支えあう介護について―

精神科医師 和田 秀樹
協議 1 シンポジウム「新しい法体系

のもとでの重症心身障害児施設の今後の選択肢」

協議 2 平成二十四年度診療報酬改定
でどう変わったか

その他

この四月からの制度改革により、重症心身障害児施設（重症児施設）、肢体不自由児施設という名称はなくなり、十八歳未満は医療型障害児入所施設、十八歳以上は療養介護に年齢で分けられることになりました。行政説明はそのような制度改革の流れや内容についての説明が主で従来の報告とほぼ同じものでした。協

議の内容からは、制度が変わったばかりで、これからのように施設運営を行っているかという不安を滲ませながら、それぞれの施設なりに模索している様子が感じられました。

従来より、重症児施設は長期入所に対する報酬として、医療費と他に比べると比較的高いサービスマスの両方が請求できるシステムになっていますが、重症度に応じた差をつけるべきだという意見が増えてきています。それは行政サイドからの声ばかりではなく、他の障害者団体からの声でもあります。同じ重症心身障害児者（重症児者）でも、人工呼吸器装着、気管切開、吸引、経管栄養などの濃厚な医療的ケアを要する超重症・準超重症と言われる人から、全く医療的ケアを必要としない人まで幅は広く、そんなに違う両者のサービスマス費が同じなのはおかしいのではないかという意見です。医師や看護師不足のため、医療的ケアの少ない重症児者を多く抱えている施設も多く、差をつけるのとすると医療的ケアの少ない人のサービスマス費が減らされる可能性があり、経営が厳しくなるため、特にそのような施設の危機意識は強いものがあります。しかし、両者のサービスマス費を分けるといふ流れには逆らえないという雰囲気も

伝わってくる会議でした。

実際、制度改革に対して、超重症児・準超重症の方の単価を上げてもらう目的で当院から、「通所、長期入所、短期入所とも超重症児者、準超重症児者の単価（福祉費）を別枠で設定し、経費に見合う単価にもらいたい。」というパブリックコメントを出しましたが、短期入所に関しては特別重度支援加算という名目で十分ではありませんが、それが一部認められた形になりました。都においても既に平成二十二年度から、短期入所、通園に関して額はやや少ないですが、同じような加算が認められています。つまり厚労省や都も超重症・準超重症の報酬は十分でないという認識にあるようです。

この流れは今後も続くことが予想されます。当院は以前より本当に入所が必要なた方々を中心に入所していただいていたので、超重症・準超重症の方の比率は約六五％で全国的に見てもきわめて高い値になっています。当院の取ってきた基本路線は利用者の立場に立つても、経営面から見ても、長い目で見れば正確な方針だったということができると思います。

当院の西藤看護部長が『新しい法体系のもとでの重症心身障害児施設の今後の選択肢』というテーマでシンポジストとして参加しました。「看護部門の経営参画」という題で、当院の実績の概略を説明したあと、看護部門がどのようにして経営に参画していくかという非常に積極

的な内容のプレゼンテーションでした。全体的に「守り」の姿勢が目立つ中で、当院の「攻め」の姿勢が目立ったのが印象的でした。

当院は長期入所、短期入所、外来、通園、訪問看護、地域支援どの分野をとっても全国有数の実績を誇っています。障害児者のライフステージ・発達ステージに応じた包括的療育支援を行っている、数少ない施設の一つです。

しかし、まだまだ不十分な点も多く、今後さらに発展させていく必要があります。例えば成果を全国に発信するという点では、大きな立ち遅れがあります。以前は鈴木康之先生、舟橋満寿子先生、長博雪先生などが学会や論文発表を積極的に行われ、療育の進歩に貢献されると同時に、東京小児療育病院の名前を全国に広げる上でも大きな役割を果たされましたが、近年、その活動が弱まっています。演者の話を聞きながら、われわれが成し遂げてきたこと、実践していることを積極的に発表することによって、多くの人と情報交換を行い、切磋琢磨しながら障害療育の全体的なレベルアップを図っていくことも当院に課せられた重要な責務だということを実感させられました。療育内容の向上のみならず、実践や研究の成果を積極的に発信していける施設へと発展していきたいと思えます。

永年勤続者表彰式

平成二十四年度の永年勤続表彰式が六月七日に桑原ホールで行われました。

今年度の対象者二十八名に、中里理事長より表彰状と記念品が授与され、五島会長より祝辞をいただきました。

昼休み、皆で昼食会がありました。

平成二十四年度

永年勤続表彰者

勤続三十年表彰 二名

西楨 正行 (栄養士)

庄司 洋 (調理師)

勤続二十五年表彰 四名

山口奈津恵 (理学療法士)

松永 文子 (理学療法士)

渡辺 明彦 (生活支援員)

千ヶ崎孝子 (生活支援員)

勤続二十年表彰 六名

大塚 ミヤ (調理師)

境 りえ (看護師)

八代 博子 (看護師)

坂本 純子 (生活支援員)

小原ひろみ (生活支援員)

栗原進一郎 (生活支援員)

勤続十五年表彰 九名

和田 恵子 (医師)

青木 吉子 (調理助手)

内田 泉 (臨床検査技師)

深澤 保子 (看護師)

阿部 千幸 (看護師)

日下部わかな (准看護師)

石原 幾子 (作業療法士)

鈴木 野枝 (生活支援員)

佐藤健次郎 (生活支援員)

勤続十年表彰 七名

栗原 佳奈 (看護師)

野内小百合 (看護師)

別府 管子 (看護師)

小泉 浩一 (生活支援員)

太田 雅代 (生活支援員)

田村 貴子 (医師)

小松 陽介 (作業療法士)



表彰者記念写真

勤続二十五年

理学療法士 山口 奈津恵

「二十五年長いですね」と言われると、確かに相当の時間かもしれません。ただ、私にとってはPTとして、目の前の患者様や利用者様と向き合い続けたら、気がついたら二十五年経っていたという感じですか。これが諸先輩方から伺った「あつという間だった」ということなのだと思います。

就職した頃から比べると、建物ももちろん変わりましたが、リハビリテーション科も、ダウン症児を対象としたグループ等のグループ指導が始まったり、訪問リハビリが始まったり、特別支援学校に外部指導員で入ることになったりなど、新しいことが仕事の内容に加わってきました。何か新しいことを始めることは大変なこともありましたが、今思えばその始まりの時々に関わらせて頂いたことが、今の自分の糧になっていたことに気が付きます。

大変なことはありませんでしたが、それ以上に担当している子どもたちやそのご家族の笑顔に出会えることが幸せで、その笑顔に支えられ助けられてきたと思います。セラピー中にもみられる笑顔がまたみたいというその繰り返しが一昨日であり、昨日であり、今日でした。

二十五年経って何でもOKとなればいいのですが、そういうわけにはいきません。次々と新たな課題が見つかります。

幸せなことに当院には職種にかかわらず、前に行く先輩がいて、一緒に学ぼうとする同僚がいます。今日も明日もこれからも患者様や利用者様の笑顔が見られるよう引き続き努力していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

あと一歩が届かず

鶴風会野球部 石井昌之

六月二十九日(金)

に島田療育センター、秋津療育園、東京小児療育病院の三チームが集まり、重症心身障害児(者)施設職員交流春季野球大会が行われました。職場から代表として十三名の参加が出来ました。前日までの雨予報に大会の開催が心配されましたが、当日は初夏の陽気の中、試合を行うことが出来ました。



初戦は、島田療育センターを延長の末に四一二で勝利しました。優勝決定戦の秋津療育園とは、東京小児療育病院が先制するも、途中に逆転された後、終盤には一点差まで詰め寄るも、あと一歩が届かず三三四で敗戦しました。

大会終了後は、東京小児療育病院に戻り、あと一歩が届かない試合内容を部員で大いに反省しながら、秋季大会に向けての親睦を深めました。

西多摩だより

西多摩療育支援センター

センター長 鶴岡 広

平成二十四年度は障害者自立支援法改正案（つなぎ法案）が施行され、児童福祉法が改定されました。これは、数年後に新しい法律が出されるまでの施策として、障害児者等の地域生活を支援するための関係法律の整備をすることが目的となります。

ポイントは概ね三つあります。一つ目は、利用者の負担が見直され、「応益負担」から「応能負担」へと変わりました。「応益負担」とは、利用者が受けたサービスの量の量に応じて負担することです。「応能負担」とは、利用者や世帯の所得を考慮して料金が決められます。費用から所得に応じて設定されている金額を引いた金額を負担することになります。最大でも自己負担額は、費用の二割です。

二つ目は、相談支援体制が強化され、障害者の地域移行や地域定着についての相談支援を充実させることになりました。

三つ目は、障害児支援の強化で、児童福祉法を基本として重複障害に対応するとともに、児童福祉法においても、障害児の定義に「発達障害・精神に障害のある児童」が追加されました。また、身近な地域で支援を受けられるよう、障害種別等に分かれている現行の障がい児施設

（通所・入所）について一元化、学齢期における支援の充実のため、「放課後等デイサービス」、保育所等を訪問し、専門的な支援を行うため、「保育所等訪問支援」を創設となりました。この法案によつて障害を持つ方々が地域生活をより暮らしやすいものにしていけるのかなと感じます。

西多摩療育センターとしては、この改正に伴い重症心身障害児者通所施設「もえぎ」を重度の障害に対応する通所施設（日中生活介護）の「児童発達支援」に変更しました。また、障害児や家族に個別に行っていた相談を拡大し事業として発展させ「障害児相談支援」へ充実させ、今まで地域支援事業として都から委託された上代継診療所で行っていた保育所や学校の訪問を「保育所等訪問支援」として整備し、西多摩地域の障害児に対する児童発達支援センターへと発展して行きたいと考えております。

世情により福祉を取り巻く環境は目まぐるしく変化し先が読めない状況です。各方面にアンテナを高くし進んでいきます。これからも皆様の御支援、御鞭撻よろしくお願ひします。

平成二十四年度採用辞令交付式

社会福祉法人鶴風会の平成二十四年度新入職員十二名に対する採用辞令交付式が、四月二日東京小児療育病院桑原ホールで行われました。

東京小児療育病院（九名）

書記	堀内 政彦
書記	穴戸 陽香
書記	石川 大輔
看護師	吉野 佳子
看護師	卯木 紗代
生活支援員	大塚 みなみ
生活支援員	河原 順子
生活支援員	井上 麻子
生活支援員	諸橋 陽子

西多摩療育支援センター（三名）

生活支援員	菅原 さやか
生活支援員	福田 麻希子
生活支援員	石塚 清子



臨床工学技士の紹介

臨床工学技士 佐原 要

四月より入職しました 臨床工学技士の佐原です。趣味はスキーとスノーボードです。神奈川県病院で働いておりましたが四月より東京小児療育病院にお世話になることになりました。

みなさんは臨床工学技士がどのような仕事かご存知でしょうか？教科書的に説明すると臨床工学技士は、医師の指示の下に生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする職業となっております。この病院で考えるなら呼吸器などの医療機器を医師の指示に従って設定したり操作したり点検したりする仕事と考えていただけたらイメージしやすいと思います。

臨床工学技士の国家資格は出来てからまだ二十五年ほどと、薬剤師や検査技師などと比べて歴史が浅く認知度が低いと思います。また直接患者にかかわって何かするような職種ではありませんし、みなさんに接する機会やお話しすること自体少ないとは思いますが、医療機器を通じて患者や家族、そして医療スタッフの皆さんに医療の質と安全の向上という形で貢献していきたいと考えております。

医療機器は普通に動いて当たり前ですが、たまには普通に動いていないのを見て臨床工学技士も頑張っているな、と思っただけだったら幸いです。



親子鶴の塔も五十年

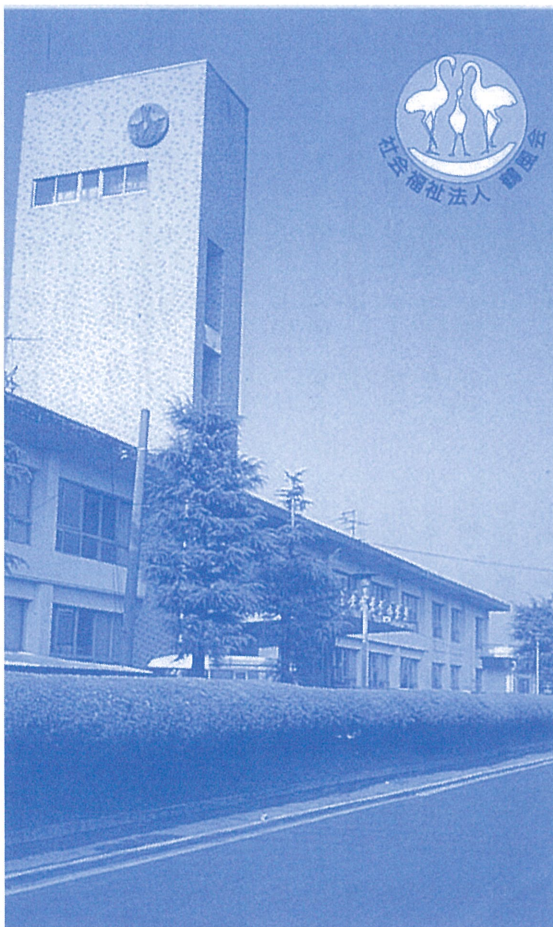
後援会 小川 昭子

東京小児療育病院が武蔵村山の地に肢体不自由児の施設として開院したのは、昭和三十九年（一九六四）ですから平成二十六年（二〇一四）には五十周年を迎えます。

当時は、脳性麻痺をはじめとして身体に障害を持つ子供達は、現在のような市民権を得ていなかったため、武蔵村山の近辺でも障害児のいることを世間から隠す風潮がありました。

厚生省のはからいで国有地を融通して

いただき、有志の方々の募金をつのり、ようやく迎えた棟上げ式には、故秩父宮勢津子妃殿下がご来臨くださいました。雨が降ればぬかるみ、晴れて風が吹けば、砂ぼこりの立つ畑地の真ん中に建つ施設は、遠くから鶴風会のシンボルの親子鶴のマークを掲げた塔が見渡せました。今、周囲は、住居や商店、コンビニなどが建ち並び、親子鶴の塔は、近くまで行かないと見えません。この塔も五十才になりました。



チャリティバザーのお知らせ

開催日 平成24年10月28日（日）
10：30～15：00
会場 東京小児療育病院院庭

チャリティバザーでは、10月中旬までご寄贈品を受け付けております。ご協力お願いいたします。イベント・作品展・模擬店など企画しております。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

お問い合わせ

総務部 TEL 042-561-2521

チャリティーコンサート ～オルフェの会～

とき 平成24年12月2日（日）
会場 11：30
開宴 12：00
ところ 新高輪プリンスホテル
出演 由紀さおり・安田祥子
会費 25,000円

お問い合わせ

総務部 TEL 042-561-2521

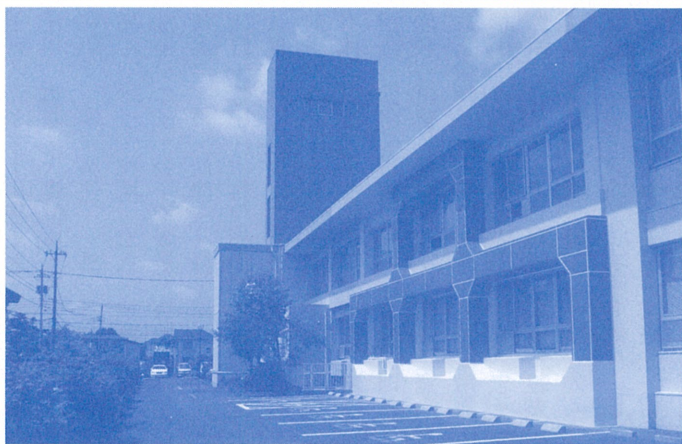
耐震補強工事完了

報告

昭和三十九年に建築された本館は、増築・改修を行い現在に至っています。平成二十二年度に東京都の補助金を受け、耐震診断を行った結果、建物の一部が強度不足と診断されました。

この度、東京都社会福祉施設等耐震化促進事業補助金を受け、耐震補強工事が完了いたしましたので、報告いたします。

経理課長 乙幡



鶴風会後援会へ(寄付者)芳名

平成23年12月～平成24年5月

名(五十音順・敬称略)

青木りう子・浅川 恭行・朝川 孝幸
 浅見 薫子・朝山 浩行・足高 毅
 足立 嘉子・安部 良治・荒木美枝子
 飯国紀一郎・飯国 弥生・飯国洋一郎
 石川 元子・石北 寿子・石田 保夫
 泉水 昇・伊藤 治男・伊藤 文子
 伊藤 元博・稲垣 登稔・井上 康子
 猪俣賢一郎・海野 俊雄・梅澤美和子
 梅田 寛子・梅田 正法・荏原 寿枝
 荏原 光夫・海老根東雄・
 桜蔭学園生徒会・太田 宏樹
 大高 究・荻原 泰・小野寺仁里
 小原 明・小原 桂子・小原 該一
 鹿島田忠史・加藤まこと・加藤祐之助
 加藤 葉子・金森 勝土・金親 正俊
 金子 晴生・金子稜威雄・鎌田 昭次
 鎌田 直子・上芝 元・勝目 宏
 勝目 幹郎・河津 緑・鬼頭 秀明
 木村 裕・久保さや佳・久保 初美
 久保 博・黒木 貴夫・黒瀧 俊彰
 高亀永美子・幸和技師研究所
 小波 達郎・小菅 孝明・後藤加寿美
 小林 一雄・小林純二郎・小林登喜子
 西條 公勝・齊藤 眞一・齋藤 登
 先山 隆司・佐々木徹郎・佐藤 中
 佐藤 重雄・塩野 則次・志鳥眞理子
 柴 昌徳・渋谷 昌良・嶋田 寛子
 島津和貴男・島野 光・清水 一輝
 清水 友里・白木善四郎
 菅野 俊一・壽子・杉本 寛子

杉山 卓哉・杉山 尚子・鈴木カツ子
 鈴木 秀明・炭山 朋子・炭山 嘉伸
 第21回日本運動器リハビリテーション学会

代表 水谷 一裕

高木 利明(高木医院)・高月 誠
 高槻 義夫・高橋 啓・高橋 妙子
 武居 正郎・竹下 茂樹・竹下 寿子
 竹下 直樹・竹下 文雄・武田 毅
 竹中希久夫・田中 政信・谷口 利江
 田原 久子・田部 秀山・田宮 親
 田宮三鶴代・塚越 実・月花 亮
 月本 一郎・月本 伸子・辻本公美子
 長岡 貞雄・中里恵美子・中里 純子
 中谷 尚登・中西 隆・中野 重徳
 中村 映子・中村志津子・中村 豊
 並木 温・西井 華子・西沢 憲二
 西宮 常代・野口 ケイ子・延 明子
 野村 直子・橋口 玲子・畑 靖子
 浜田 雅・早川 浩市・林 佳子
 原田千鶴子・原田 則雄・東 恵子
 平野 徹・藤田 親代・藤田 親代
 藤田よし江・馬嶋 順子・松島 英乃
 松橋 求・松原 龍弘・松本 章
 松本 知子・丸山 和子・水落 笙子
 水上 淳子・水野久美子・水野 惇子
 水野 孝子・宮川千鶴子・三宅 三
 宮代 英吉・向山 徳子
 向山 秀樹・千代・村上リヨウ
 村川 公一・村川世津子・森 克彦
 森 紘子・盛川 温子・森澤 豊
 矢野 春雄・山川ふみ子・山崎 公子
 山田 輝代・山田 智政・山村 憲
 山本 高裕・横山ちとせ・吉田 正己
 吉見 梓・釜范 登志・三登 和代

早原 千鶴・渡辺 善則・渡辺 享子

社会福祉法人鶴風会へ(寄付者)芳名(法人団体個人)

平成23年12月～平成24年5月

名(五十音順・敬称略)

阿部美代子・石田 勇・板垣 祝夫
 伊藤九一郎・今倉世志和・岩本 敦子
 海老原明次・大西 一禎・大場 幸延
 小畑 恵子・上岡 謙夫・上岡 正子
 菊地 由美・齊藤 雅彦・佐藤 明子
 佐藤 清子・佐久田キク子・椎木 俊秀
 清水 宏・鈴木 康之・隅山 協夢
 瀬野 國男・高橋 孝彦・高橋裕見子
 中里由理枝・野見山捷昭・舟橋満寿子
 保坂 猛・前畑 安宏・松尾 賢二
 松本 誓子・守田 洋・矢澤 貴代
 柳 恵子・山田耕一郎・山谷 敏男
 吉川 芳登・吉永 久子
 (株)エクセルサービス
 (株)サンメデイカルサービス
 八王子建物管理(株)
 中藤ボランティア会 大嶋正子
 通園みどり保護者会

五十周年記念事業募金(寄付者)芳名

平成24年6月～平成24年7月21日

名(五十音順・敬称略)

青木りう子・浅島 裕雄・蘆立 かつ
 新井 恒子・有村 章・五十嵐いづ子
 石北 寿子・稲垣 登稔・入江チヨ子

上野 洋子・上山征史郎・白井登世子
 江川 惠基・大野眞由美・冲野 佳子
 荻原 泰・奥住 一雄・落合富士也
 尾中 妙子・柘原 宏久・加藤 陸美
 金子クニ子・金子稜威雄・鎌田 直子
 河上 修・河津 緑・岸 芳正
 北野千賀子・木村伊都子・木山 博夫
 久保 修一・黒木 貴夫・黒瀧 俊彰
 河野 喜一・小菅 孝明・後藤加寿美
 小林 一雄・小林登喜子・小湊 達郎
 西條 公勝・斎藤 長則・斎藤 則善
 佐多 由紀・佐藤 中・澤井 寛人
 志鳥眞理子・地引 明美・島田 敏雄
 杉山 卓哉・杉山 尚子・鈴木 忠子
 鈴木 峰子・高木 利明・高槻 義夫
 武田 晶子・竹本 照子・多田 久人
 塚越 実・月花 亮・月本 一郎
 月本 伸子・辻本公美子・東條 相
 東條 靖・直海 保子・長澤 貞継
 中島 映子・中谷 尚登・中村ちなみ
 萩沢 雅子・浜田 雅・早川 浩市
 晴山 正志・東 恵子・日山 愛子
 平野 陽子・福井 卓也・福田 静子
 藤田よし江・舩松ヒサ子・松井 一雄
 松尾 賢二・松岡 玉枝・松島 英乃
 丸山 和子・丸山 葉子・水野 正子
 宮下 元子・宮本 宣義・森 紘子
 矢高レイ子・柳田 謙蔵・山川ふみ子
 山口 美穂・山崎 公子・山田 輝代
 山村 憲・横田 卓史・吉永 淑子
 吉見 梓・米谷もりの・龍 倫之助
 渡邊 弘恵